

訪問撮影法に基づく立花山登山道のまちなみ景観の把握と評価

九州産業大学 学生会員 ○藤井祐輔 九州産業大学大学院 学生会員 末次祐貴
九州産業大学 正会員 山下三平

1. はじめに

福岡県粕屋郡新宮町は近年、JR 新宮中央駅を中心とする西部地域で人口の増加が著しい。一方、国道 3 号線の東側に位置する東部地域は空き地、空き家が目立っており、人口が減少している。そのため東部地域では、地域活性化に向けた取り組みが必要である。とくに立花山の登山道からは、自然の事物や歴史的建造物が多様楽しめる、活用が期待される。

そこで本研究では、東部地域の立花山登山道を対象とし、訪問撮影法による景観調査を行う。こうして景観特性と評価を、登山者の視点から明らかにすることを目的とする。

2. 対象地域について

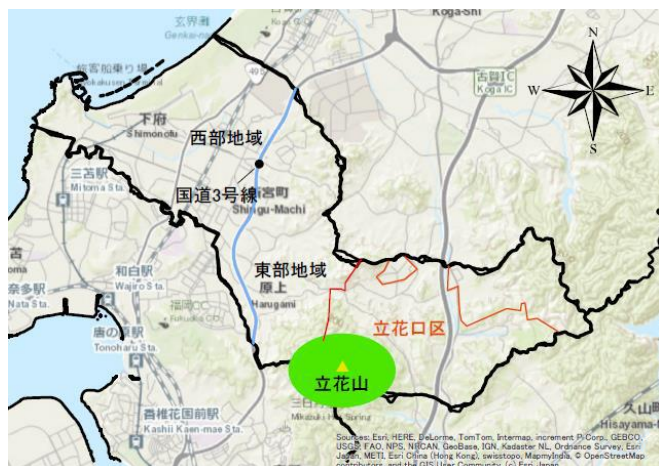


図-1 新宮町と立花口区 (ArcGIS をもとに作成)

新宮町は、総面積 18.9 km²で福岡県の北西部に位置する¹⁾。本研究では東部地域の立花口区に位置する立花山を扱う(図1)。立花山は標高 367mの山で、年間約 3 万人登山客が訪れている。山頂付近には国の特別天然記念物に指定されている樹齢 300 年を超えるクスノキが自生している¹⁾。また梅岳寺や六所宮、独鈷寺など重要な史跡が残されており、周辺には多くの古民家が立ち並んでいる。

3. 調査方法

本研究は調査に「訪問撮影法」を適用した。被験者にデジタルカメラを渡し、指定されたルート(図2)を往復で歩きながらその周辺の景観・風景を自由に撮影し、その

都度コメントを記入してもらう手法である。被験者は、大学生 26 名(男子 13 名・女子 13 名)で合計 908 枚の写真を得ている。そのうち、上りに撮影した枚数は 623 枚、下りに撮影した枚数は 285 枚である。調査は 2017 年 10 月 5 日～11 月 20 日に行った。被験者 26 名のそれぞれの写真から主対象を 59 種に分類し、さらに 6 種に包括分類した(表-1)。この分類には 3 名の分析者が当たり、協議の上で決定した。またコメントの精査を同様にを行い、評価を「肯定」「否定」「中立」「評価なし」の 4 つに分類した。



図-2 立花口区登山道 (ArcGIS をもとに作成)

表-1 主対象とその包括分類の種類

包括分類	被験者データ									
	居住	自然	移動・誘導	風景	共有の場所	聖性	その他	居住	自然	移動・誘導
主対象	建物 (319)	花 (36)	サイン (101)	風景 (26)	公共施設 (12)	神社 (25)	電線 (3)	建物 (319)	花 (36)	サイン (101)
	池 (27)	木 (33)	道 (87)	まちなみ (21)	公共施設 (12)	神社 (25)	電線 (3)	池 (27)	木 (33)	道 (87)
	屋 (9)	山 (22)	ロー (18)		公共施設 (12)	神社 (25)	電線 (3)	屋 (9)	山 (22)	ロー (18)
	門 (2)	生き物 (22)	階段 (3)		公共施設 (12)	神社 (25)	電線 (3)	門 (2)	生き物 (22)	階段 (3)
	車 (2)	果樹 (18)	ガードレール (2)		公共施設 (12)	神社 (25)	電線 (3)	車 (2)	果樹 (18)	ガードレール (2)
	トイレ (1)	竹 (13)	浮き輪 (2)		公共施設 (12)	神社 (25)	電線 (3)	トイレ (1)	竹 (13)	浮き輪 (2)
	ソーラーパネル (1)	樹 (9)	反響鏡 (1)		公共施設 (12)	神社 (25)	電線 (3)	ソーラーパネル (1)	樹 (9)	反響鏡 (1)
	郵便 (1)	車 (8)	カラーコーン (1)		公共施設 (12)	神社 (25)	電線 (3)	郵便 (1)	車 (8)	カラーコーン (1)
	ゴミ (1)	車 (7)			公共施設 (12)	神社 (25)	電線 (3)	ゴミ (1)	車 (7)	
	建物 (1)	空き地 (5)			公共施設 (12)	神社 (25)	電線 (3)	建物 (1)	空き地 (5)	
	登山口 (1)	水鏡 (3)			公共施設 (12)	神社 (25)	電線 (3)	登山口 (1)	水鏡 (3)	
	道 (1)	にけ (3)			公共施設 (12)	神社 (25)	電線 (3)	道 (1)	にけ (3)	
		草地 (2)			公共施設 (12)	神社 (25)	電線 (3)		草地 (2)	
		土 (1)			公共施設 (12)	神社 (25)	電線 (3)		土 (1)	
		道 (1)			公共施設 (12)	神社 (25)	電線 (3)		道 (1)	
主対象数 計	12 (308)	15 (184)	8 (215)	2 (40)	7 (44)	2 (34)	13 (30)	12 (308)	15 (184)	8 (215)

4. 結果と考察

(1) 包括分類の割合

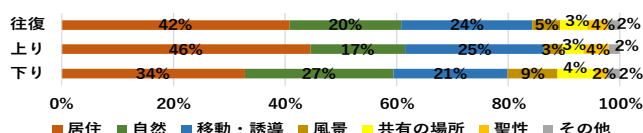


図-3 包括分類の割合

図-3 は「包括分類」の割合を示す。「居住」が上り(46%)、下り(34%)とも最も撮影頻度が高い。つぎに上りは「移動・誘導(25%)」、下りは「自然(27%)」と若干の差が見

られるが、この3項目でいずれも8割以上を占める。沿道の家並みを中心に上りは登坂、下りは登坂の行為を離れ、自然物に関心が向くことが分かる。なお「風景」も下り(9%)が上り(3%)を上回る。俯角(下り)の方が仰角(上り)よりも周辺事物に視線を向けやすいためと思われる。

(2) 主対象の割合

図-4は主な(10件以上)の主対象の割合を示す。上りでは「看板(10%)」と「古民家(10%)」、下りでは「道(11%)」が一番多い。つぎに上りでは「道(9%)」、下りでは「古民家(7%)」、「風景(7%)」、「看板(7%)」である。図-5～図-7は道、古民家、看板の例である。下りは「風景」が上位にあり、上述のとおり、俯角の特性が現れたものと思われる。

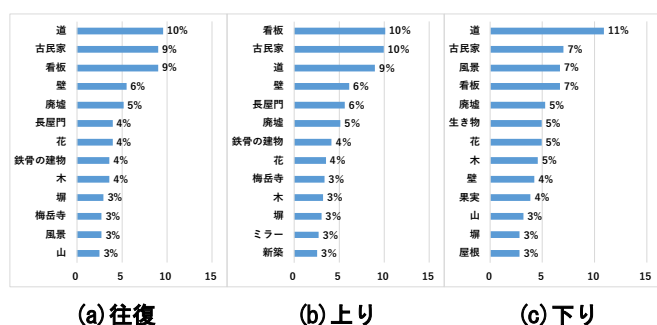


図-4 主対象の割合



図-5 道の例

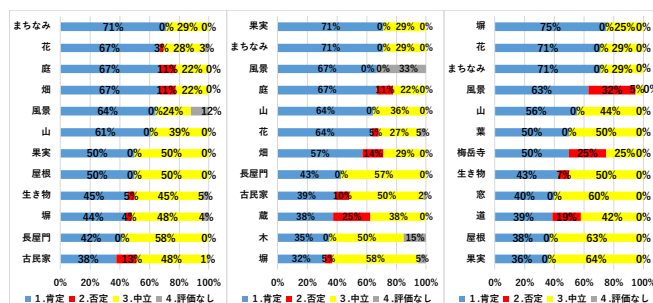
図-6 古民家の例

図-7 看板の例

(3) 主対象の評価の割合

図-5は主な(10件以上)の主対象の評価の割合を示す。往復の中で一番多く肯定の割合を占めているのは、「まちなみ(71%)」である。図-6と図-7はまちなみの例であり、コメントの中には「ゆるやかな坂に古民家が並びきれい」や「木の壁が周りの風景と合っている」などが挙げられ、古民家のまちなみが肯定的に受け取られたと考えられる。一方、上りでは「まちなみ」の他に「果実」が肯定の割合(71%)が高いが、下りでは中立が多くを占めている。図-8と図-9は果実の例であり、肯定の評価のコメントには「おいしそう」や「きれい」などが挙げられ、中立の評価のコメントには「目に入った」などが現れる。本地域の特産物である果実の見えについて、上りと下りに違いが現れるのは興味深い。下りでは「堀」が肯定の割合(75%)が高いが、上りでは中立が多くを占めている。図

-10と図-11は堀の例である。コメントの中には、「とてもレトロな感じで良かった」や「堀がオシャレ」などが挙げられた。また、「景観とあまり合っていない」と否定の評価のコメントを挙げる被験者もいた。このように被験者によって事物の捉え方の違いが現れる。



(a) 往復

(b) 上り

(c) 下り

図-8 主対象の評価の割合



図-9 まちなみの例

図-10 まちなみの例

図-11 果実の例



図-12 果実の例

図-13 堀の例

図-14 堀の例

5. まとめ

本研究では、立花山登山道の景観を訪問撮影法により検討した。その成果は以下のとおりである。

- 1) 上り、下りとも、「居住」「移動・誘導」「自然」に対する関心が高い。
- 2) 「道」や「古民家」、「看板」に高い関心をもち、下りは「風景」に関心が高い。
- 3) 上りでは「果実」、下りでは「堀」に対する肯定的な評価が高い。

以上のように登山道の利用者はとくに「道」「古民家」「看板」に関心が高い。また「果実」は上り、「堀」は下りで肯定的な評価が見られる。このことを本登山道の景観資源として活かす方策が今後の課題である。

謝辞：本研究は新宮町からの受託研究「東部地域における地域資源活用調査」(代表者：山下三平)によった。

<参考文献>

- 1) 新宮町：<http://www.town.shingu.fukuoka.jp/>